

考古学研究室報告

第 54 集

越高遺跡 A 地点

2018年度 考古学研究室の足跡

2019

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：空から越高遺跡を望む（航空写真）

裏表紙写真：越高遺跡 A 地点調査風景

序 文

2015年より開始した越高遺跡の発掘調査が昨夏で終了した。長年の発掘人生でも経験したことのない不思議な遺跡であった。遺跡がどのように形成されたのか、なぜここに遺物がでるのか、地質学的な見解を得ても、十分に理解はできなかった。二次堆積層だとは言いきれない遺構の存在はいまだ持って不可思議であるし、ほぼ年代的に整合性を保って出てくる遺物の層位的な出方も、その不思議さをさらに大きくする要因であった。広い面積の大規模な発掘調査を行わなければわからないことなのかもしれない。ただ、遺跡も、海の波の下ではあるが、思いの外良好に残存していることがわかった。その意味で、今回の発掘調査は越高遺跡の真の姿を捉えたとはいえないが、これまでの既存の発掘調査ではあまり判然としなかった、A・B両地点間の層位的な対比や縄文土器との関連性などを明かにできたのでは、と自負している。いずれにせよ、本遺跡が先史時代の日韓交流史を捉える上できわめて稀有な遺跡であり、後世へ引き継いでいかねばならない重要な遺跡であることは十分に再認識できた。

調査中には、全国的にもきわめて貴重な遺跡を発掘するのだから、それなりの成果を出さねばとの気負いと焦りから、遅々と進まない作業に苛立ち、学生を叱りつけもした。感情的になる場面もあったと反省している。ただ、発掘調査という名のもとに遺跡を壊す者が持たねばならない厳しさを少しでも感じてくれたらどうか。この4年間で数名の学生が埋蔵文化財行政の職に就いた。これも拙い4冊の報告書とともに、一連の実習発掘がもたらした成果の一つと思う。この対馬での経験が原点となり、彼らの仕事ぶりに反映されることを祈る。

昨夏の調査には、韓国釜山大学校の林尚澤教授の計らいで、釜山大学から大学院生4名が参加してくれた。韓国焼酎を一抱えと大箱一杯のラミョンを持参しての参加であった。片言の日本語・英語・韓国語であっても、酒が潤滑油となり、ラミョン鍋を一緒につつきながら、夜を経るごとに打ち解けていく彼らの姿は、まさに、この地で7000年前に起こった韓国新石器人と縄文人の交流の姿を彷彿とさせた。心配など微塵も必要なかった。この貴重な体験と隣国の友人たちが彼らのこれからの人生の糧となれば幸いである。

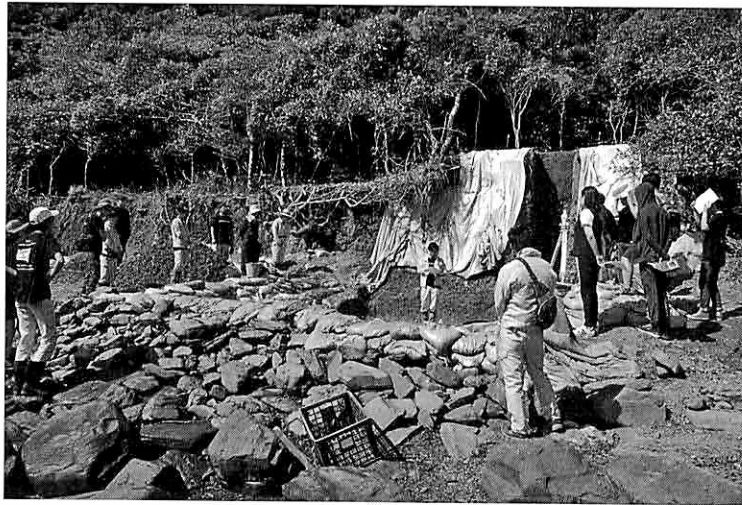
今回もさまざまな方々のお世話になった。尾上博一氏をはじめとする対馬市教育委員会、長崎県教育委員会、大橋旅館の皆様、対馬青年の家の皆様、阿比留伴次さんや長崎菜々子さん親子、越高集落の皆様、そして、遺跡を見学に来られ、貴重なご意見やご情報をいただいた皆様にも心より感謝の言葉を申し上げたい。

ただ、これですべてが終わったわけではない。最終報告書の作成と遺跡の保存へ向けての取り組みが大きな仕事として残っている。気を引き締めたい。

平成31年2月1日

小畑 弘己

越高遺跡 A地点



現場説明会風景2018/9/18

例 言

1. 本書は、長崎県対馬市上県町越高に所在する越高遺跡（A地点30・33番地）の調査報告書である。
2. 調査期間は、2018年9月7日～21日の15日間実施した。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室と対馬市教育委員会が共同で行った。
4. 調査担当者は、小畑弘己（熊本大学大学院人文社会科学部教授）と新垣匠（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
5. 越高遺跡に対する調査は、次のように調査次数を整理する。なお、越高遺跡はA・B地点の2地点で構成される。第4次調査以前は、A地点を越高尾崎遺跡、B地点を越高遺跡と呼称していた。
 - 第1次調査 調査期間：1976年12月11日～17日
調査内容：B地点の発掘調査
調査主体：上県町教育委員会・長崎大学医学部解剖学第二教室
 - 第2次調査 調査期間：1978年7月16日～22日
調査内容：A地点の発掘調査
調査主体：上県町教育委員会
 - 第3次調査 調査期間：1996年8月26日～9月13日
調査内容：A・B地点の発掘調査
調査主体：長崎県教育庁
 - 第4次調査 調査期間：2015年8月16日～24日
調査内容：A・B地点の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会
 - 第5次調査 調査期間：2016年9月11日～22日
調査内容：B地点の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会
 - 第5次追加調査 調査期間：2016年10月3日～20日
調査内容：B地点の発掘調査
調査主体：対馬市教育委員会
 - 第6次調査 調査期間：2017年9月11日～21日
調査内容：A・B地点の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会
 - 第7次調査 調査期間：2018年9月7日～21日
調査内容：A地点の発掘調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会
6. レベル高はすべて海拔を表し、方位は磁北を示す。
7. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（2014）日本色研事業株式会社発行による。
8. 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図（三根）、第9図は同発行の2万5千分の1地形図（鹿見）を複製したものである。
9. 出土土器の放射性炭素年代測定および遺跡の地形・地質の調査に際し、小林謙一氏（中央大学）と西山賢一氏（徳島大学）より玉稿を頂戴した。
10. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。尾上博一（対馬市教育委員会）、水ノ江和同（同志社大学）、小林謙一（中央大学）、西山賢一（徳島大学）、寺田正剛（長崎県教育庁）、古澤義久（長崎県埋蔵文化財センター）、田中聡一（壱岐市教育委員会）、河仁秀（福泉洞博物館）、林尚澤・広瀬雄一（釜山大学）、阿比留伴次、豊田佐伊士、豊田典昭、釜山大学、対馬市教育委員会、長崎県教育庁、長崎県立対馬青年の家、大橋旅館（順不同・敬称略）
11. 調査参加者は以下の通りである。
小畑弘己（熊本大学教員）、新垣匠・嘉戸愉歩・エンフマグナイ（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、高 雅云（同研究生）、小堀嵩史（同文学部4年）、岩熊拓人・齋藤明日香・中野志緒莉・宮浦舞衣（同文学部3年）、有本馨菜子・石本祐太郎・牟田有輝・河内 亮・姫野勝・藤森あきの・森 悠統・山田紗佑里・渡邊美緒香（同文学部2年）、内門柚香・齋藤 愛・西 貴史・崎谷京加・山吉健太・吉田健佑（同文学部1年生）
12. 本書の編集は小畑弘己の監修を受けて新垣匠・嘉戸愉歩・エンフマグナイが担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本文目次

一 位置と環境	1
1. 対馬の地理的環境と越高遺跡の立地	1
(1) 対馬の環境	藤森あきの 1
(2) 越高遺跡の立地	〃 2
2. 対馬の歴史的環境	3
(1) 対馬の原始・古代	3
縄文時代	河内 亮 3
弥生時代	〃 3
古墳時代	渡邊美緒香 4
古代以降	〃 4
(2) 対馬における遺跡立地の変遷	4
縄文時代・弥生時代	姫野 勝 4
古墳時代以降	石本祐太郎 5
二 越高遺跡A地点の調査	6
1. 調査経過	6
(1) 既往の調査(第1次調査～第6次調査)	森 悠統 6
(2) 今回の調査(第7次調査)	嘉戸 愉歩 10
2. 調査の概要	11
(1) 第Iトレンチ	11
ア. 調査区の設定	中野志織莉 11
イ. 調査区の層序	〃 11
ウ. 遺物出土状況	〃 11
(2) 第IIトレンチ	13
ア. 調査区の設定	宮浦 舞衣 13
イ. 調査区の層序	〃 13
ウ. 遺物出土状況	〃 13
3. 出土遺物	14
(1) 土器	齋藤明日香 14
(2) 石器	岩熊 拓人 16
(3) その他	〃 16
三 自然科学分析	29
1. 放射性炭素年代測定	パレオ・ラボ 29
2. 越高遺跡出土炭化物の炭素14年代測定	小林 謙一 31
3. 越高遺跡A地点 地形・地質調査結果	西山 賢一 35
四 まとめ	新垣 匠 41

図 版 目 次

- 図版 1
 - 1 越高遺跡遠景（北東から）
 - 2 A地点調査前近景（東から）
 - 3 空から見た調査区（東から）
- 図版 2
 - 1 調査区全景（北西から）
 - 2 第Ⅱトレンチ堆積状況（東から）
- 図版 3
 - 1 A地点遺物出土状況（1）（南から）
 - 2 A地点遺物出土状況（2）（西から）
 - 3 第Ⅰトレンチ深掘部堆積状況（北から）
- 図版 4 越高遺跡A地点出土土器（1）
- 図版 5 越高遺跡A地点出土土器（2）
- 図版 6 越高遺跡A地点出土石器（1）
- 図版 7 越高遺跡A地点出土石器（2）
- 図版 8 越高遺跡A地点出土石器（3）
- 図版 9 越高遺跡A地点出土石器（4）
- 図版 10 越高遺跡A地点出土石器（5）

挿 図 目 次

第 1 図	越高遺跡位置図		1
第 2 図	対馬の地質図		2
第 3 図	越高遺跡で採集された土器		6
第 4 図	第 1 次調査 調査区位置図		6
第 5 図	第 1 次調査 土層断面図		7
第 6 図	第 2 次調査 調査区位置図		7
第 7 図	第 2 次調査 土層断面図		8
第 8 図	第 6 次調査 検出炉跡図		8
第 9 図	越高遺跡 A・B 地点位置図	(新垣製図)	9
第 10 図	A 地点測量図	(小堀・中野製図)	10
第 11 図	A 地点第 I トレンチ南壁土層断面図	(宮浦製図)	12
第 12 図	A 地点第 II トレンチ土層断面図	(宮浦製図)	12
第 13 図	A 地点出土土器 (1)	(有本・藤森・山田・齋藤製図)	17
第 14 図	A 地点出土土器 (2)	〃	18
第 15 図	A 地点出土土器 (1)	(牟田・岩熊・嘉戸製図)	21
第 16 図	A 地点出土土器 (2)	〃	22
第 17 図	A 地点出土土器 (3)	〃	23
第 18 図	A 地点出土土器 (4)	〃	24
第 19 図	A 地点出土土器 (5)	〃	25
第 20 図	A 地点出土土器 (6)	〃	26
第 21 図	A 地点出土土器 (7)	〃	27
第 22 図	暦年較正結果	(パレオ・ラボ作成)	30
第 23 図	年代測定試料	(小林作成)	33
第 24 図	測定試料の較正年代の確率分布	〃	34
第 25 図	越高遺跡 A 地点の全景	(西山作成)	35
第 26 図	越高遺跡 A 地点の海食崖のパイピングホールからの湧水状況	〃	36
第 27 図	越高遺跡 A 地点の背後の溪流からの地表水	〃	36
第 28 図	満潮時に水没した越高遺跡 A 地点のトレンチ	〃	37
第 29 図	6 層下部の角礫層中に含まれる重円礫	〃	38
第 30 図	越高遺跡 A 地点 北西端の海食崖掘削面	〃	39
第 31 図	第 2 次調査出土土器 (山元編 2016 を一部改編)	(新垣作成)	42
第 32 図	各調査区土層対応図	〃	43
第 33 図	越高遺跡土器変遷図	〃	44

表 目 次

第 1 表	越高遺跡基準点座標一覧 (局地座標).....	(新垣作成)	9
第 2 表	出土土器各層出土状況	(齋藤作成)	15
第 3 表	出土土器観察表	(山田・有本作成)	19
第 4 表	出土石器観察表	(岩熊作成)	28
第 5 表	測定試料および処理	(パレオ・ラボ作成)	29
第 6 表	放射性炭素年代測定および暦年較正結果	”	30
第 7 表	分析資料	(小林作成)	31
第 8 表	前処理の結果	”	31
第 9 表	グラファイト化の結果	”	31
第 10 表	放射性炭素年代測定の結果	”	32
第 11 表	推定される較正年代 (calBP 表記)	”	32
第 12 表	推定される較正年代 (BC/AD 表記)	”	32